専大スポーツ
No.444
【専大スポーツ】https://www.senshu-u.ac.jp/sports/
専大スポーツ編集部公式WEB
掲載記事を含む全文はコチラ↑
Twitter @sensuponow
Instagram sensuponow

アジア競技大会
ボクシング57kg級

原田 殊勲の銀

パリ五輪出場決定

堂々のファイトで銀メダルを獲得した原田
日本ボクシング連盟提供

パリ五輪出場決定！。中国・杭州で開催された第19回アジア競技大会（9月23日～10月8日）のボクシング競技男子57kg級で、原田周大（法4・豊国学園高）が準優勝。同競技は2024年パリ五輪の予選も兼ねており、銀メダルとともに五輪出場権という素晴らしい結果を持ち帰った。

五輪の切符を懸けた10月4日の準決勝では、タイの選手に判定勝ち。勝利の瞬間、右手を高々と突き上げ、喜びを爆発させた。翌日の決勝では今年の世界選手権大会を制したウズベキスタンの選手に敗れたが、「試合の中での駆け引きなど、多くを学ぶことができた試合だった」と振り返る。

「最終目標はパリ五輪優勝」と話す原田。「出場を決めることができて良かったが、あくまでも通過点。今まで通り妥協することなく日々の練習に打ち込んでいく。死に物狂いで努力し、来夏には、さらに成長した姿を皆さんにお見せします」と力強く宣言した。

（小野茉凜・文1）

五輪出場を決め喜ぶ原田
日本ボクシング連盟提供

フェンシング女子エペ団体 齋藤 銅

フェンシング部の齋藤華南（経済3・秋田商高）は女子エペ団体に出場した。1回戦でモンゴルに快勝すると、続くウズベキスタン戦は、齋藤の4連続ポイントなどで相手を突き放して勝利。準決勝で香港に敗れたものの、銅メダル獲得に大きく貢献した。

「メンタルや体調を万全の状態に持っていくのに苦労したが、うまくコントロールして試合当日を迎えることができた」と齋藤。「もう一つ勝ちたかった。しかし成長できた部分も多く、今後の自信につながる」と前向きに振り返った。

日本代表のチームメートからも刺激を受けたと話し、「今回学んだことを生かせるように練習に励みたい」と意欲を見せた。

（山口由結・文3）

卒業生も活躍

今大会では、卒業生の活躍も光った。

馬術部OBの吉澤和紘さん（平20経営）が総合馬術個人で銅メダル、同団体で銀メダルを獲得。フェンシング部OGの菊池小巻さん（平31商）も女子フルーレ団体で銅メダルに輝いた。

81kg級 飯村がベスト8

全日本学生柔道体重別選手権大会＝9月30日～10月1日、千代田区・日本武道館

11月の講道館杯全日本柔道体重別選手権大会の予選を兼ねた大会で、男子81kg級の飯村成満（法1・水戸啓明高）がベスト8入りと躍進。専大勢で唯一、講道館杯出場を決めた。

3回戦では、相手の出方をうかがいながら粘り強く戦い抜き、ラストは見事な技ありで場内を沸かした。続く準々決勝はわずかな隙を突かれ、払い腰で敗れた。

飯村は「体力のなさや決め手を欠いたことなど、もっと練習していく必要がある」と冷静に分析する。講道館杯に向けて「挑戦者として、一試合でも多く勝てるように心身を整えたい」と話した。

（小山明香・文2＝写真も）

躍進した飯村

講道館杯の出場決める

女子S・坂井 準優勝 初の表彰台

東日本学生バドミントン選手権大会＝9月4～11日、宮城県・カメイアリーナ仙台ほか

坂井叶（文4・新潟青陵高）が女子シングルスで2位と躍進した。

坂井は、「大学で初めて表彰台に上ることができてうれしい」と喜びを語った。一方で、フルセットの末に惜敗した決勝戦を振り返り、「満足のいくプレーをすることができなかった」と悔しさをにじませた。

今後について「今回見つかった課題を修正し、大学4年間の集大成となる10月の全日本学生選手権大会でベスト4を目指す。後悔の無いよう、全力で頑張りたい」と意気込みを語った。

（千葉里央・文2）

初の表彰台を喜ぶ坂井

16年ぶり 3位入賞

関東学生剣道優勝大会＝9月10日、千代田区・日本武道館

専大は初戦から順調に勝ち星を重ね、準決勝で今大会優勝の筑波大に敗北したものの16年ぶりの3位入賞となった。

主将の濱地慶一（経営4・福岡大附大濠高）は、「16年ぶりの3位入賞をうれしく思う半面、準決勝で勝ちきれなかったという悔しさもある」と話した。

また、11月の全日本学生剣道優勝大会に向けて「4年次生にとって大学最後の試合になる。良い結果を残し、大学に貢献できるように、日々の稽古を大切にしていきたい」と意気込んだ。

（小室亜季・文3）

躍進した剣道部

阿部・船場が特別賞

9月14日に終了した秋季関東学生卓球リーグ戦は女子が3位、男子が4位。個人では、出澤杏佳（文3・大成女子高）が優秀選手賞に選ばれた。

なお、4年間の通算勝利数による特別賞を阿部悠人（文4・希望が丘高）＝写真、船場清華（文4・明徳義塾高）が受賞した。阿部は「専大のエースとしてチームに貢献できたことの証し」と喜んだ。

（高橋奈月・文1＝写真も）

ゴルフ部 福住 小田 関東学生で1、2位 更なる飛躍誓う

笑顔の小田（左）と福住

8月の関東学生ゴルフ選手権で福住修（経営3・明徳義塾高）が1位、小田祥平（文2・開志国際高）が2位と、専大の2人が上位で並んだ。

福住は「優勝を狙っていたので達成できてうれしい。狭いコースだったが、強みであるドライブをしっかり打つことができた」と振り返る。11月の日本学生王座決定戦に向けて調整を進めており、「優勝したい」と意気込む。

昨年から三つ順位を上げた小田は、「自分には自分にしかできないプレーがある」と〝ブレない心〟で戦い抜いた。「2位になることができてとても良かった。周りに左右されることなく、自分のプレーを続けられたからだと思う」と笑顔で語った。

強豪ひしめく中、チームのエースと期待の星が大健闘を果たした。両者はこの結果に自信をつけ、更なる飛躍を誓って鍛錬を積んでいく。

（河上明来海・文3）